

現代法学部開設 20 周年記念号の発刊に寄せて

現代法学部は、2000 年（平成 12 年）、東京経済大学創立 100 周年に当たる年に開設された。昨年は、本学部開設 20 年目に当たり、11 月 16 日に、進一層館ホールにて、本学理事長、学長らを来賓にお迎えして、学部開設 20 周年記念式典を行った。

式典では、理事長、学長より本学部 20 年の歩みにおける刮目すべき実績と成果について祝意と今後の励ましの言葉をいただき、引き続いて、島田和夫本学名誉教授・元現代法学部長による記念講演が行われた。この講演記録が、本号に掲載されている。

式典を羽貝正美現代法学部長（当時）の閉会の辞で終えた後、キャンパス内の食堂で記念パーティーが開かれた。式典および記念パーティーでは、在校生および多くの卒業生、学部現・元教職員らが集い、総勢 100 人近い参加者を得て、卒業生と教員・元教員らが再会を喜び、在校生も加わり、学部関係者が一堂に会して、盛会裏に学部 20 周年を寿ぐことができた。

本学部は、2019 年度までに 4049 名の卒業生を世に送り出してきた。本学部卒業生は、弁護士や司法書士の法曹、税理士などの専門職、国家・地方公務員、NPO 法人、国際交流、金融・情報通信・建設・製造業などの民間企業の各界で活躍している。

その卒業生の近況や学部の思い出を伝える、学部開設間もないころから最近までの卒業生 24 名の便りを集めた、学部 20 周年記念冊子『絆と歩み』を、記念式典の開催と並行して刊行した。この冊子には、島田和夫、宮崎良夫両元学部長および羽貝正美学部長（当時）の寄稿文も載せ、学部の開設から現在までの歩みを簡便に知ることができるようになっている。

この冊子に寄せられた卒業生の便りには、ゼロから始まった新設法学部が、この 20 年の間に着実に歩みを重ね、教員と学生が一体となって、新しいタイプの法学部としての「現代法」を盛り立て、実績を上げてきた歴史が、期せずして凝縮して明らかにされており、深い感銘を与える。

現代法学部は、経済社会のグローバル化、裁量行政から事後規制へ、裁判員裁判などの法における私人の役割の増大という「法化社会」の大きな潮流に即した、現実の社会課題に応える法学教育を掲げて発足した。当初は、とくに「消費者」「福祉」「環境」を中心としていたが、2015年にカリキュラム改正を行い、これに「ビジネス法」「公共政策」「総合法」を加えて、6プログラム制として、社会課題に即した法学教育の拡充を図った。

無事に「成年」を迎えた現代法学部は、本学創立120周年の年に当たり、本学の建学理念である実学志向に沿う現代的法学部にふさわしい、次の10年、20年の更なる発展を期している。

現代法学部長 藤 原 修